

# 令和4年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	地域農業分析支援シートを用いた野菜産地の構造分析手法	
[要約] 本手法は、地域農業分析支援シートを用いて野菜産地の構造分析を行うものであり、システム上で分析したい項目を選択するという簡易な操作で地域単位・品目毎の分析が可能である。				
キーワード	産地構造分析	農林業センサス	野菜産地	企画管理部 農業経営研究室

## 1 背景とねらい

野菜産地の生産戦略検討に向けては、産地構造の現状把握・分析が必要である。しかし、産地において十分な分析ができていないことが多い。そこで、品目、JA単位等の詳細なクロス集計が可能な地域農業分析支援シートを用いた野菜産地構造分析の手法を提案する。

## 2 成果の内容

- 野菜産地構造の動向を把握するには、分析対象となる地域・品目において、様々な視点から産地の特徴を分析する必要がある。そこで、使用者が閲覧したい地域や集計項目を選択するという簡易な操作で集計表やグラフの出力が可能な「地域農業分析支援シート」を用いて、以下の手順で分析を行う。
  - 「地域農業分析支援シート」で、分析したい地域（JA・旧市町村等）を選択する。
  - 対象品目の作付経営体のデータを選択し、経営体数、作付面積、販売金額等の推移や、後継者有無や経営主年齢別の経営体数の割合及び推移等を出力・分析する。
  - さらに、特に重要な視点として、経営形態別（個人又は団体）、販売金額規模別、作付規模別、経営主年齢別の作付経営体のデータを選択のうえ、クロス集計・グラフ化し、各階層においてどのような属性の経営体が多いのか、伸びているのか等を分析する。
  - ア～ウにより、必要に応じて同地域内の全経営体や他品目及び他地域等の分析を行い、比較を行う。
- 本手法の適用例として、ピーマンの主産地であるA農協を題材とした分析例を示す（図1～5）。A農協のピーマン産地では、近年経営体数を維持しているものの、その多くはピーマンの作付面積が0.1ha未満層と小規模である。また、65～74歳層の販売金額割合が多く、担い手の高齢化が進んでいる。一方で、比較的規模の大きい団体経営体や49歳以下の若手農業者が増加しており、世代交代や担い手への農地集積の動きもみられる。
- このように、地域農業分析支援シートを活用することで、上記のような野菜産地構造分析を分析したい項目を選択するという簡易な操作で行うことが可能である。なお、上記のような分析は、任意の品目や、JA及び広域振興圏、旧市町村単位でも可能である。

## 3 成果活用上の留意事項

- 農産物の販売規模は、農林業センサスデータの制約により、選択した品目のみではなく各経営体が生産している全農産物の販売金額の総計により階層分けしたものになる。
- 地域農業分析支援シートの詳細は、参考資料を参照のこと。
- 野菜産地構造分析手法の詳細は、報告書（別冊）を参照のこと。

## 4 成果の活用方法等

- 適用地帯又は対象者等  
県内全域 野菜産地支援に関わる農業普及員、JA営農指導員・行政機関の担当者等
- 期待する活用効果  
現状把握に基づく農業生産の振興に係る施策の立案及び検討

## 5 当該事項に係る試験研究課題

(R3-03) 2020年農林業センサス等を活用した農業構造動向分析[R3～R5/県単]

## 6 研究担当者

小向昌啓

## 7 参考文献・資料

令和4年度岩手農研試験研究成果書「農林業センサス個票データを用いた「地域農業分析支援シート」」

## 8 試験成績の概要（具体的なデータ）

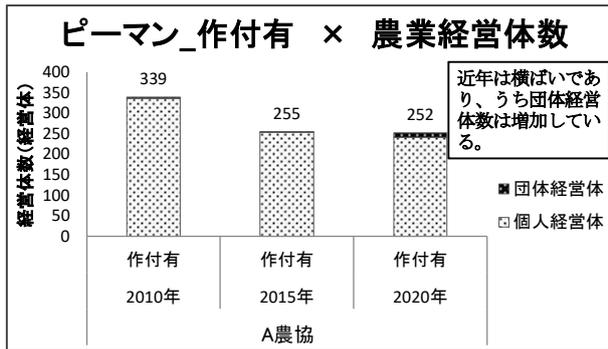


図1 ピーマンを作付している経営体数

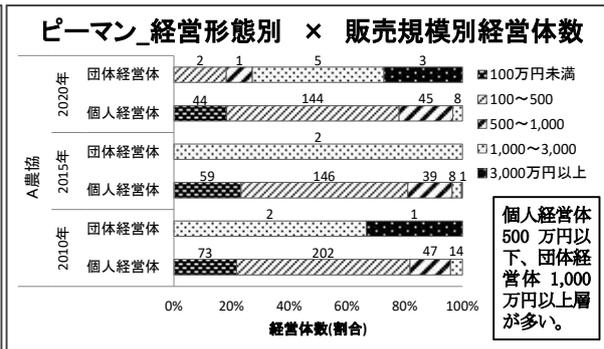


図2 経営形態別の販売規模別経営体数(割合)

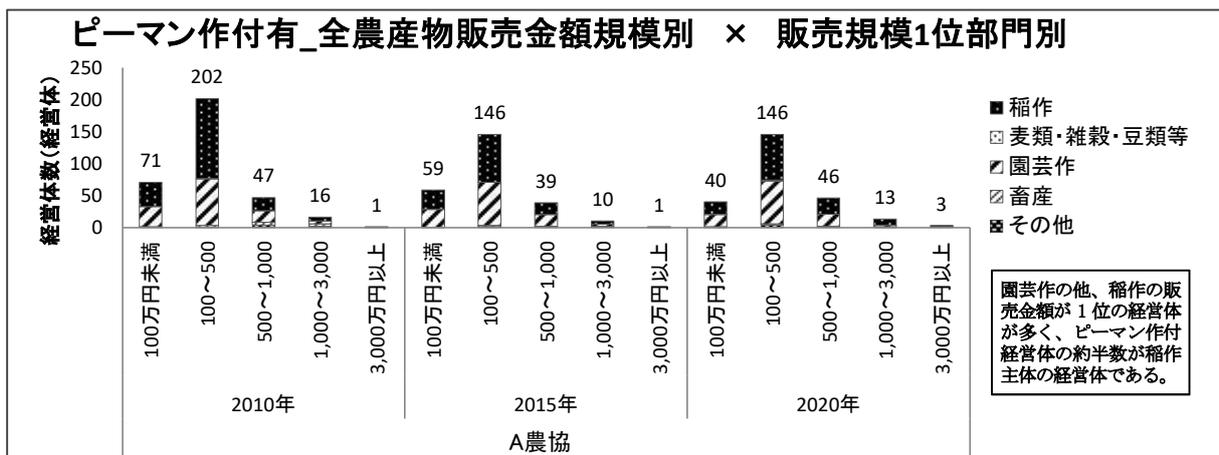


図3 販売金額規模別の販売規模1位部門別経営体数

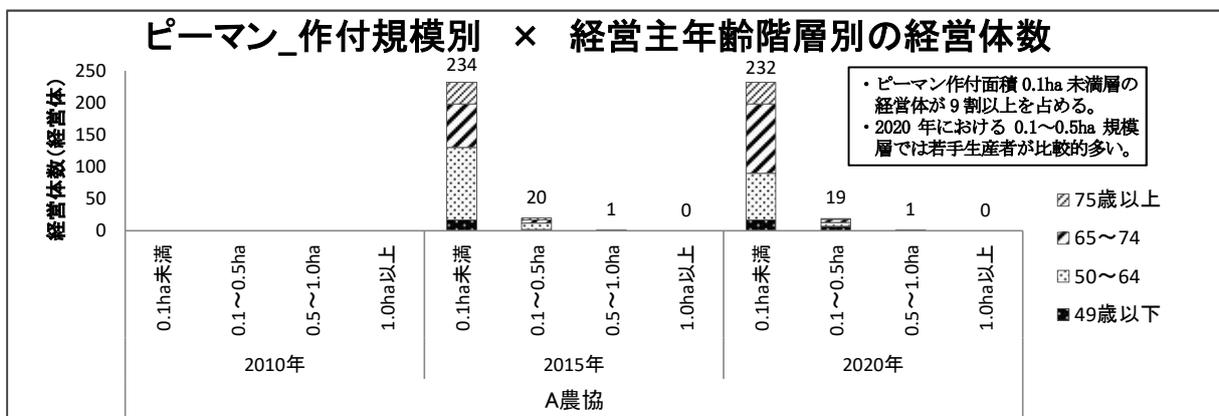


図4 作付面積規模別の経営主年齢階層別経営体数

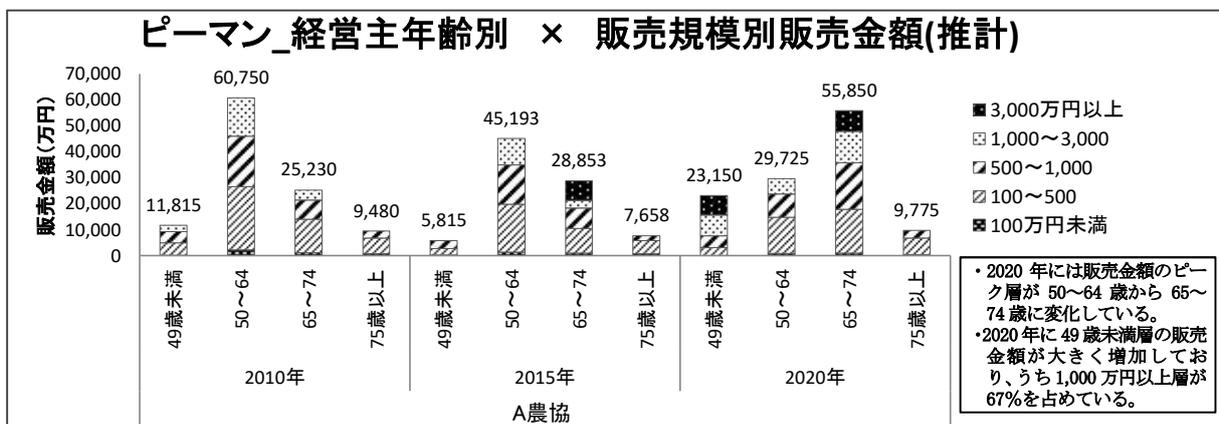


図5 経営主年齢別の販売規模別販売金額(推計)